

指扇小だより

教育目標 **やり抜く子の育成**

かしこく やさしく たくましく あたたく

新年号 令和7年1月7日 第10号

さいたま市立指扇小学校

〒331-0078

さいたま市西区西大宮1丁目49-6

電話 048-623-0133 FAX048-624-2200

【児童数】男子 446名 女子 427名 計 873名

『宙わたる教室』を読んで

校長 引間 陽子

新年、令和7年、2025年、巳年の始まりです。
今年1年、よい年でありますようにと願っております。

年末年始の気忙しさも伴う中、今季、填まった本を読破し、感慨に浸る瞬間がありました。『宙（そら）わたる教室』という伊与原新（いよはらしん）氏の著書で、第70回青少年読書感想文全国コンクール課題図書《高等学校の部》に選出され、昨年にはドラマ化された小説です。

東京・新宿にある都立高校の定時制に集まった様々な事情を抱えた生徒たちが、担任からのひよんな投げかけで「科学部」を結成し、「火星のクレーター」を再現する実験を始めていくお話。煌々と明かりが灯った夜の教室で、小さな奇跡が起こっていくのです。個々に重い事情を抱える背景の中、始めは乗り切れない生徒たちの気持ちがどんどん変わっていく大きな出逢いとなったのです。先生たちの熱い思いとそれに応えた生徒たちの奮闘に感銘を受け、最後の頁に書かれた言葉が心に残りました。



仮設校舎への引越完了

科学部を作りたいのだからって、火星の青い夕焼けの話をしてくれた夜。

あれから一年が経ったなんて、とても信じられない。学ぶことを知り、本当の仲間というものを知り、自分の中にあるいろんな感情を知ったこの日々を、この先決して忘れることはないだろう。【中略】

あの夜、藤竹（担任）は、「この学校には、何だってある」と言った。だから、岳人（主人公）は心の中で、青空はねえよ、とつぶやいた。そんな学校が、東新宿高校定時制が、今は無性に恋しい。藤竹が言ったことは、正しかった。あそこには、何だってある。その気になりさえすれば、何だってできる。俺の居場所は、しんとした校舎の窓明かりが灯る、あの教室だ。窓から暗い夜の街しか見えない、あの教室だ。そして、俺たちの教室は今、宇宙をわたる。

学校では、2学期終業式で執り行った『校舎お別れ式』が昨年末12月27日付埼玉新聞に掲載され、子どもたちの「長い間ありがとう」の感謝の気持ちを多くの方にも伝えていただきました。おかげさまで年末に引越を完了し、3学期から仮設校舎での学校生活が始まりました。引越をしたばかりのため、御迷惑をおかけすることもあります。何卒、御理解・御協力ください。

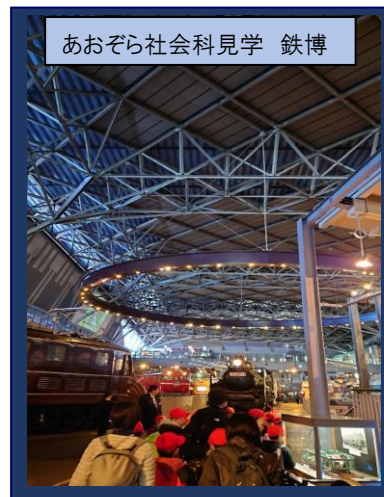
保護者や地域の皆様にとりまして、今年1年、よい年になりますように。どうぞ、よろしくお願いたします。



1年遠足 東武動物公園



3年社会科見学 市博とロッテ工場



あおぞら社会科見学 鉄博